



プロソディと予測処理：

アクセントの変化がもたらす情報

Zoom・対面開催

2026年

2月20日（金）

15:30-17:00

参加費無料・

大学院生・研究者対象

対面参加

上智大学 四谷キャンパス
中央図書館8F
L821室

事前申込みは
不要です



Zoom参加

事前申し込みが必要です

申込締切:2/18(水)15:00

Zoom参加申込み

こちらから



広瀬 友紀氏

(東京大学総合文化研究科教授)

講演概要： 人間の自然なリアルタイムの言語コミュニケーションを可能にするためには、入力された情報を素早く処理するしくみがその脳内に備わっているはずである。統語構造の解析においては、日本語のような主要部後置言語でも、得られた入力を保留することなく、すみやかな逐語的処理が行われることを示す知見はこれまで多く得られてきた。そしてさらに、人間は未入力の情報まで予測的に処理できることも、近年さまざまな事例で指摘されている。

本発表では、日本語のピッチャーアクセントの情報による予測処理について、東京方言の複合語形成に伴うアクセント変化・近畿方言でみられる低起式平板語の声調変化という情報に着目した視線計測実験を紹介する。